THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年五月十五日

定價金四錢

女學雜誌

第六十號

毎月三回發行

績文舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●〔女學叢誌〕女子登用論●〔中外新報〕拾數件●〔學藝一斑〕食物の事●〔手藝一斑〕毛糸編物●〔列女傳〕倭文女の傳（書入）●〔論説〕女學生の心得（穗積陳重君述）○女子の体育（櫻井錠二君述●〔新作物語〕閨の徹夜燈（書入）〔家政要報〕數件●〔御伽草〕數件〔寄書〕伊勢物語ハ詞花言葉のみを事とせざる論○石田先生の謹戒●〔英語獨修〕ナーショナルリードル直譯

女學叢誌

○女子登用論

職業といふ事といひ換ふる時ハ生命を繼ぐべき方便なり人として生命あるかぎりハ由て以て之を維持すべき方便即ち職業なくんばあらざるなりとハ今更事新しくいはずとも誰か斯ばかりの事を辨へざるものゝあるべき去りとて我が邦人の一般をおしなべていふ時ハ男子すら大工左官など通じて職人と稱ふるものゝ外ハ是と定りたる腕に覺えの職業あるものハいと稀なるべし試に通常の人に向ひ御身の長技ハ何なるかと問はんに是と定まりたる藝術とてハある事なけれども普通の文通にハ差支へずなど答ふるもの多かるべく少し上等なるハ漢籍をば數年學びたり四角なる文字ハ大概讀み得ざる事あるべからずといふなるべしさてハ左國史漢をば丸薬となして呑みたるがごとのるべき經書にハ至りて深く子類も一わたりせられたるハ固よりの事なるべけれど如何なるものをや主に讀み給ひたると問んにいやとよ官私大方の諸試驗にハ史記八大家軌範なとこそ必要なれ是等の書の初め數卷をば一わたりしたれどいまだ其他をば知らず詩ハ試驗に要なければ學ばず文章も大概ハ假名交文にて事足れば譯文復文の外ハ文屬りたる事あしなどいふが多かるべくまたハ英佛若くハ獨逸學を修めたりといふにぞさてこそ當世の人物なれ何學をやと問へば是と定めてハ學ばざれど歴史地理の書をば讀みたりそれとても變則といふものにて學びたれば洋人に遇ひてハ身振の外意を通ずるの法なく洋文の手紙かく樣ハ固より請取かく爲便さへ知らずといふが如き儕輩もあるなるべし男子にして倘は斯る有樣なるがゆゑに從來我が邦の女子ハ職業とすべき技藝のなきハ左まで怪むべきにあらざるなり然れども世の增々開け行く今日にありてハ最早斯る有樣にて生計を營まん事叶ふべからざるがゆゑに妙齡の子弟ハ爭ひて各々職業を得ん事と勉め夫々の學科を修め思ひ〳〵の技藝を學び醫となり法律家となり或ハ文學或ハ理學、機械、鑛山等の學者技藝家となりて身を立てんとするもの續々輩出するを以て女子もまた悠然舊

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

慣を固守そべきの時にあらざるなり左ればこそ女子の教育論は近頃大に世上に盛んとはなりたるなれ然るに女子の教育に最も先なるは職業と授くるにありとは余輩の持論にして女子に職業なき時は爭で男女の同權を望むべき是本誌上に於て屢論じたる所なり而して女子に職業を授けんにはその區域を擴め種類と多くする事最も必要なりとぞ思はる即ち官私とも女子を使用するの道を開かずんばあらざるなり其道と開かんには先政府に於て女子を登用し女子に適當なる仕事に從事せしめられん事余輩の切に企望して止まざる所なりその最も適當なるは郵便と電信にあり既に我が電信局にては技手の妻子を募りて技術を教授せらるゝ事となりしと聞えたれど願くは世上に廣く女子の技術生を募られたらんには直接と間接とを問はずその益少なからざるべしと信ずるなり郵便局にありても書狀を撰分け消印をなすなど女子を使用するに適當なる仕事の多かるべく其他諸官省にありても女子をして取扱はしむるも差支なきのみならず却て男子よりも便利なる事柄蓋し少なからざるべし米國にては諸官省に多くの女子と使用せる事嘗て本誌に掲げたるが如くまた英國にありては倫敦ニディンボルフ、ダブリンの三都府にて郵便電信の事を取扱ふ婦人の數は殆ど二千人に近しといへり扨また婦人を監獄吏に使用する時は其温和優柔なる性質と以て罪囚を勸化するの功なしとせざるべし既に英國にては婦人の監獄吏たるもの二百餘人ありてその中三人の貴婦人は監獄長となりて一箇年四百ポンドより五百ポンド(凡そ二千圓より二千五百圓)の俸給を受くるものありといへりされば我邦にありては諸 官省 廳に女子を登用するの道を開かれたりとて決して歐米に例なきの事にもあらず隨つて民間に女子を使用するの道をも開き女子職業の教育を振興するの良策たるのみならず男子にありても增々藝術を修めて世に無職の徒なからしむるの道に幾かるべしと余輩は信じて止まざるところなり

◎中外新報

○皇后宮の令旨　この程の事なりとか東京慈惠醫院へ左の令旨を下し賜ひたるよしに承はる

皇后陛下の令旨

やまひは萬のくるしみを生ずるもとにしてその不幸は富貴なる人も同じ事ながら分て貧きは病にかゝりても醫師の治療を受る事を得ざるによりていゆべき病も終にいえずその身はも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とより妻子までも不幸に陥るに至るまでとに哀むべきものなりされバ我祖宗ハ夙にかゝる不幸の民をすくふことをつとめ給ひ施薬院を設けて普く疾病のものをすくひ養ふべき所となし給ひ天平寶字元年 勅 して越前國の懇田一百丁を以て施薬院に附し朕と衆生と永く病苦の憂を減し共に延壽の樂みを保たんと願ひ給ひしハ實にあり難き御事と申すべし今や百事祖宗の遺意に法とり泰西の文物とも取り用ひ給ふ時にわたりて未だ充分に貧者に施薬する設けなきハ常に憾みとする所なりしに頃ろ婦人慈善會委員上奏して有志共立東京病院と更に一層擴張し余が看護の下に置らんと請ふ余ハ甚だこれをよみす然るに今ハ古しへと事のはりかゝる事にまで國庫の財と費そを得ざれば廣く有志の力によりてこれを維持するやう爲さざるべからず是れ上下慈善と共に施すものにして余が甚だ樂しむ所なりよりてまづ若干金を寄附して東京慈惠醫院の費に供せしむ朝野慈善の婦人及び群臣民よく此旨を體して各々應分の寄附をなし以て天平寶字の勅のごとく永く病苦の憂を減じ共に延壽の樂みを保しむべき仁惠をなさん事を望む

○東京慈惠醫院へ行啓　　皇后陛下にハ兼て定めさせたるがごとく去る九日同院へ行啓わらせて開院式を行はせ給へり

○東京慈惠醫院の事　去る二日夜同院幹事長有栖川宮御息所にハ京濱間の紳士巨商を鹿鳴館に招かせられ同院の事につき御相談ありたる次第を承はるに當夜八時ごろ應接の人々が參集あるを待て古澤外務書記官一々之を引き御席に進めらる其座にハ御息所を始め毛利、鍋嶋、松方、山縣、橋本、大山夫人其他十餘名(何れも幹事)列席せられ高木橋本の醫員方も傍坐せらる井上伯ハ更にこの紳士を引き御息所に紹介し玉ふ其人々ハ澁澤榮一、福地源一郎、川田小一郎、種田誠一、原六郎、茂木總兵衛、原善三郎、田中菊次郎、三野村利助、西村虎四郎、富田鐵之助、澁澤喜作、川崎八右衛門、川村傳衛、古川市兵衛その外十餘名の紳士なり御息所ハ一々鄭重なる御會釋ありて夫より皇后陛下が同院設立の事につき深き思召ある旨を述べ玉ひ且つ御自身の特選と以て幹事長を命せられさせ玉ひし事をものたまはせられまた幹事其外會員一同と共に盡力すべしとの事又それにつき資本醵金の義ハ各々に委託するとの旨を丁寧に御演說あり尋で井上伯ハ目下慈惠醫院の資本限在高一万七千圓あり又宮内省より下賜の分二万圓あり又皇 太后宮皇后宮両陛下より毎年御下賜わるべき者六百圓づゝ(千二百圓)ありその外ゟ每年一回(十月)開設そる惠慈會収入金の半額お

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り此等を以て資本の増殖を計り居れり然るに本院の月費六七百圓に下らず此ハ會員(婦人)の毎月寄附(一圓より五圓まで)其他の義捐金ともて支辨すれども此寄附義捐にて永久の維持を謀るべからず要する所ハ前條の資金を十分にしてその利子をもて持續するにあり爰に諸君に望む所ハ右資金増殖の爲君等その主唱となりて普く海内の慈善者に義捐の事を勸進し玉へまた君等まづ其慈金五十圓以上(五年間漸納)を寄附して資本増殖を助けられよとの趣きを懇切に述べられ紳士一同委曲領承の旨を答へられ別室に於てカッフヰーの饗わり更に資金募集の方法等を議せられ終て御息所ハ一同に丁寧なる御禮謝あり夜十時に至りて退散せられたり(日々新聞に據る)

○華族女學校生徒服制　同校よてハ今度生徒着服制限と設けられ各生徒の保証人へ左の通り通知ありたるよし

体育ハ智育徳育の基礎にて之を成就すべき適當の課業ハ唯体操の一課のみに候處一体和様の服装ハ身体の運動に不便なる中にも女子普通の衣服ハ袖裔等の体裁徒らに手足を繼絆し不便最も甚だしく候故本校生徒体操課の義も此迄ハ空く敎習見合せ置候得共到底忽せにすべからざる事に候へバ來る六月一日を期し体操課正式の敎習相始め可申候付てハ同日より當校の生徒たるもの在校の時間ハ左に掲ぐる制限を守り必ず洋服着用可致事に相定め候此段御承知有之度候

(華族女學校生徒洋服制限)○第一衣服の地合ハセルヂ、フランチル、麻、木綿の類に限るべき事○第二衣服仕立の形ハ當校に備へ置る雛形四種の中にてその年齢に適應せるものを撰み之に準據すべき事○第三レース金玉等高價の飾物を用ふべからざる事○(附則)從來所持の洋服にて右第一第三に抵觸せざるものハ當分その儘相用ひ苦しからざる事

右制限に隨ひ新調せんとする向ハ兼て當校に於て其便と計り地、模様、仕立工合及び代價等詳細取調べ置候に付御打合せ可有之候也」明治廿年五月九日　華族女學校

○女子の職業　北米合衆國に於て目下職業に依りて生活する女子の數ハ總計三百万人にして其中六十万人ハ農業殊に南部の綿業に從事し六十万人ハ各種の製造所に服役し五十三万人ハ洗濯業に從事して常に合衆國より清國人を逐放せんとを主張せり又廿八万人ハ女帽製造人廿万人ハ女服裁縫師六万人ハ裁縫師雇人五十万人ハ商店雇人學校敎員電信技術師主計書記植字工若くハ保傅にて二千五百人ハ醫師なりと云(五月十一日官報)

○夫妻の契約　此ごろ上州伊香保にて有名なる温泉宿の主

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人某氏は或る令孃と結婚の約調ひ有名なる學士鳩山和夫矢田部良吉の兩氏を媒酌人とし婚儀を擧るに當り夫妻の間に契約したる箇條を聞くに男を甲とし女を乙とし甲乙の間に左の約束をなせしと讀賣新聞にいへり乃ち約束とは○甲は乙の夫となり乙は甲の妻となり甲乙夫妻たる事を約束す○夫妻の關係は終身繼續すべきものなるを以て甲乙共に離婚を求むる事を得ざるものとす○古來七去とて種々些少の原因より夫は妻と離別する事を得たりといへども右は今日に於て法律道德共に許さゞる所なるを以て右七去なるものは甲乙間に無効なるは勿論なりとす○夫妻の關係は最も親密なるを要するが故に甲乙互ひにその關係については尊長親族其他何人を問はず之に干渉せしめざるやう勉むべき事を約束す」とのよし

○女子高等教育論　は此程上槇町の六合館より發兌せり此書は獨逸伯林大學の講師ジウリング氏の著書なるを同大學におられし哲學士久松定弘君譯されその議論は女子に實業を授くべきを主張したるものにて余輩敬服する所のものなり

◎學藝一斑

○食物の事（前號の續き）

譬へば總て筋肉の運動するは取りも直さず喰事する事消化する事また消化したるのもを夫々の細胞に運輸する事であると考ふるも差までの相違はなかるべし扨て細胞の動作をいへば始め受けたる時の如く原形質を燒きてこれを消盡する事なり酸素は原形質にある力の土藏を開くものなれどもこれを開きてその力を夫々分配する事をば爲さずたゞ火藥の火花のごとき作用をなすのみ余輩はまへに生命ある機械と生命なき機械とに譬へていひたりしが生命なき機械は自ら其食物を求むる事ありやまた或る機械は蟹に爪と生ずる如く其車を生ずる事ありや決て然る事はなかるべしされば人間の如き活たる機械と死したる他の諸機械と實は同じきにはあらざるなり

扨て食物とは何物なるかと問はんに若し食物とは豆類チースなどであるといはゞ斯の如き品物は或る人或は或る動物の食物となすを得れども一般の人一般の動力の食物にてはあらずといふを得べし又食物とは使ひ捨てたる原形質を補充するものなりといはんには勢力といふ考へは少しも籠り居らざるなりそれにては未だ完全の解明しとすべからず若しまた食物とは勢力の多くあるものなりといはゞダイナマイト火藥などは餘ほどの勢力を有するものなるがゆゑに是等も食物であると

いはざるを得ず又食物ハ夫々適用なる勢力を含み居る物質であるといへども水ハたゞこの勢力を運輸するものにて斯る勢力を含むものにてハあらず鹽もまたこれと同じ事あり然れども尚は鹽も水も勢力をこそ持たね大切なる食物の中へ算へずんバあらざるなり斯く解き明して食物といふ事の定義を定むる時ハ酸素もまた食物の中に加ふべし　（未完）

◎手藝一斑

○毛糸編物

フラッフャー毛玉の拵へ方　厚紙（帳面の表紙などよかるべしボールといふ黄色の厚紙即ち書籍の表紙の眞とある紙もよろし）と差わたし一寸にても二寸或ハ三寸にても好みに隨ひ圓形に切りその中心に丸き穴（四寸の直徑なれバ穴の直徑ハ一寸五分の割合の大さにすべし）をあけるべし

右の厚紙乃ち我が邦にていへば鍔のごときもの二箇を拵へこれを二枚合せて中心の穴の周圍に糸（麻糸の細きものか絹糸をよろしとす）を當てその兩端をば少し長く外に出しおき其上より毛糸をグル／＼と鍔の穴に通して巻きつけるべし

扨て凡そ厚紙一ぱいに糸をまきたるのちハその糸口を初の糸口とよく括り前に穴の周圍にあておきたる麻糸或ハ絹糸の兩端の糸口を以て可成堅く締て括るべし

堅く括りたるのちハ厚紙の周圍の縁の所を鋏刀にて切りはなし厚紙の鍔をぬき取り鋏刀にて恰好よく丸き玉となるやう切るべし玉の紐ハ毛糸の前後の兩端を切り放たずその儘用ひてもまたハ麻糸絹糸の括り目の殘りにて他の紐に括るもよし

◎列女傳

○相良秀彬が妻倭文女の傳下

腕も通れと秀彬が刺貫ぬきたる匕首の尖頭深く氣管を斷つ淋漓を迸る鮮血を名殘にお倭文ハ鬼籍に入りけんと思ひしよハ似ず匕首の峯にて頸をかすりしまゝ、執拗の念を疊へかけ偶刺とばかりに刺貫ぬきしがお倭文ハひやりと頸元に障れるものゝありしと以て驚き覺つ氣を失ひ人を呼んと思ひきや徐かに兩の眼を睜らき良人の顔をいつ／＼目戍て莞爾笑みを含ミしまゝ「所天ハお氣が狂ひましたの大事を知つた女房を切つて首途の血祭りに義を結びたる其の方へ夜と日に繼で御發覺をなさる御身が愛情に拳の鈍るハ如何な事お心緊と持直して復の刀にサッパリとお切りなされト惡びれず目と瞑りたる健氣

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の覺期聞く秀彬ハ今更に烈女の精神殊勝の一語氣を呑まれつゝ茫然と姑しハ答へも出ざりしをお倭文ハ復もや聲をかけ「大義に與そ御身にハお氣の弱い猶豫して父母目敏く覺めたらば後悔先に立ちますまい大事に代へる小事の手始め早く早くト急き立てられ秀彬今ハ手に持ちし刄を鞘にしつかと納め臥したる妻面影を目戍語ひたる兩眼に熱き涙を拭ひもやらず「天晴見上げた其の心底夫れでこそ秀彬が二世と固めし女房ぞや知つたる上ハ包むに及ばぬ誠汝の察しに違はず師に約したる同盟の義を貫ぬかんと心にもあらぬ追從輕薄と口に稱へて官途に就き奴隷に等しき壓屈を身に甘んじて受けたるハ政府の内部を探らん爲め恨みを忍び恥辱を耐へ今まで辛抱したなれども義を擧ぐるにも間もなければ實ハ今夜ハ發足と心を決して豫てより忍び／＼に荷物を纏め船積問屋へ托し置き我が身一つと積込みなバ夫れまで最早落ハない併し過日の手師といひ荷物を運びし容子まで殘らず知つたハ其方もゑ悲愍なからも手に懸けてと斷然思ひついたれども今振下す刄の下に胸に浮びし身の失策今若し其方を手にかけて殺すハ易き事なれども此の身も直ぐに逐電せば謀殺犯の汚名を衣て忽ち逮捕に及ぶハ必定爾うなる時ハ同志の士に盟ひし事も水の泡空しく死するが哀しさに故と心を試し見れば思ふに違ひて丈夫の精神是れでこそ我が大事を打明すとも苦しからじと思ひ込みたる心にハ必らず違ふとあるまじ若し熊本にて神風連の義兵を上げしと聞きたらバ此の風說に注意せよ味方に勝利の沙汰あらば凱旋する日ゝ心に待て若し又不利の沙汰あらバ我れハ阿容／＼官軍の綁縛を受くるに忍びねば只だ潔よく討死せん然る上からハ憑みある良人を憑まず何人にも其の身を寄せて相良家の末の榮えを祈るべし斯くいふうちに夜の更たれバ我れハ是より發足なさん生死流轉の海の旅今夜を限りと思へよと壯士の身にも哀別の感慨胸に餘りてや

妻臥二病牀一兒泣レ饑　一身直欲レ攘二戎夷一
今朝死別兼二生別一　只在二皇天后土知一

と口の裏にて吟ずれば倭文女も涙に聲曇らせ

蘆田鶴ハ蘆間隱れに身を處て空に懷ひの音をのみぞ鳴く

と同じ雲濱先生の歌を詠じておもむろに互ひ心を迯しつゝ思はぞ目と目を見合せて別れ難くぞ見えにける。良やありて秀彬ハ心弱くて愜はじと心をとゝと取直し身輕に旅の裝束して彼の匕首を懷中なし裏口より忍て出行くを留めぬハ留むるに彌や增して胸の憂苦の嵩めるなるべし。斯くて切なき夜を明

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し涙を拂ふて臥床を出でしが所天の安否の心許なく只顧彼方の空よのミ心と運ぶ娘が風情斯くあらんとは知らざれど常日頃より睦ましき女夫中にも何事の痴話口諍のありしにや婿秀彬は宅にはあらずお倭文は沈みてのみ見ゆるに父は慢に氣を揉ミて娘に問へども荅へもなく奴婢等に之れと尋ぬれども若旦那は昨夜まで奥に讀書して居られしがと荅ふるのみにて事實と得ず只だ疑ひに籠れるをお倭文は苦しき胸のうちより誠我が良夫秀彬こそ國に殘せし老母とやらんの今にも知らぬ大病とて昨夜電報來りしかば父母に告るも遑なく今曉未明に行裏を收め西國方へ發足ありしと纔かに父を慰めたり。
其の年の冬熊本より最と驚くべき

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

通信あり其ハ何事と繹ぬるに政府を恨む壯士の輩が黨と組んで神風連と其の名を呼びつゝ蜂起なし先づ鎭台の官舎に入り種田少將を殺害し猶ほ縣令の舘を襲ひ安岡縣令を暗殺して今台兵と劒戟と交ふる最早と聞えしかばお倭文が胸にハ白刃を刺べらるゝに稱や增して切なき思ひに腸も斷ち切らるゝが如くなりしが此の警報の結局をいまだ聞くに及ばずして相良一家ハ悉とく拘留の身となりけるなりお倭文ハ期したる事なればバ更に聊か惡びれず從容として綁縛を受けしが父母の驚き一方ならず不明の闇より引出され不明の闇の囚獄へぞ最と嚴かに繋がれけるお倭文ハ何卒父母を救はんものをと意と碎き尋問の度種々に詞を設けて陳辯すれども更に疑獄の解る時なく事實を語るハ別るゝ折良人に對して誓ひたる詞に背くの恐れありと苦しき胸を忍びしが獄中までも忍びなき神風連の沒落に今ハ良人も潔よく討死ありし比ならんと思へば良人に聞きたる良人を出し遣りたる事父母の此の義を知らざりし事落なく陳供したりしにぞ父母ハ直ちに放免されお倭文ハ事の鎭定まで繋がれたるが是れさへも日を經て放免されしとハ當時耳にせし事なるが相良一家ハ如何になりたるか今ハ其家とても見ず倭文女が苦節と寫し出して此の欄內の餘白を塡めつ

◎論說

○女學生の心得(前號の續き)　穗積陳重君　演述

終に交際上の事を少々述ませう是迄我邦良家の處女ハ深窓に養はれて居まして交際社會にハ一切顏を出さなかッたものでそが近頃に至り文明の春風が婦人の方へも吹廻して來まして鶯が谷の戶を出るやう追々と社會に現れらるゝ樣になッて參りました總じて「自由が殖れバ責任も增す」と申しましてドウしても人に交際致しますればバ種々の關係も生じ樣々の誘惑もあり多く人目に觸れさがなき人の口にも掛る事故深窓の下に養はれ居る處女に比じまそればあなた方の責任ハ遙に重くありますゆゑにその德義上の志操が堅固でなくてハならぬ事ハ今更申すまでもありません是ハ先生達よりも屢々お聽きなされましたらう依て私ハ西洋にて中等以上の娘ハ此事につき如何なる注意をなすかをご參考のためにお話申しませう西洋にてハ未婚の處女ハ他の婦人に比しますればバ一層德義上の氣風を高尙にし風儀等の事に就てハ非常の注意を加ふるものゝ樣であります」例バ平素談話の際でも下品な事や猥褻かましき話でも出ますれば其座に居らず中にハ色を起し席を蹴立て其

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

座と去りまするものもあり又ハッコを程よく立去るものもあります男子に於ても苟且にも聞苦しき事を婦人の前にて語り出すを愼みます然るに日本にてハ從來婦人と卑みました風より婦人の面前にて隨分猥褻の話を始める者がありますまた昔風の婦人ハ格別これと氣に致しません隨分落語師や淨瑠璃語抔が猥褻極まる事をいふのを聞き耻かしい共何とも思はずに笑ひ樂む婦人も時々見掛ますが是等ハ誠に見苦いものでございます日本にてハ前にも申せし通り婦人の前をも憚からず猥褻がましき談話を初める不作法男もありますから其時にハ少々不都合でもその坐を避るがよろしからうと思ひますまた宴會集會などに招かれました時主人又ハ賓客の中に品行上につき如何しき評判の者などがありました時ハ假令兩親ハ之に臨むも未婚の娘だけハ斷るを常と致します又未婚の若夫婦が男女混合の宴席集會等に臨みますにハ必ず兩親の中とか親戚とか婦人の敎師とか其他然るべき人と同伴でなけれバ參らぬを例と致しますまた遊興見物芝居等の如きものも西洋未婚の若婦人達ハ其主意の如何しき物や猥褻慘酷なるものハ見物するを耻しいと思ひます我邦の演劇にて申しますれば遊女とか藝者とか或ハ盜賊との情死をしたものとかゞ主人公となる演劇ハ中々行事でハありません鬼神お松とか妲妃のお百だとかお染久松の類ハ男が見ても面白くハありません又お岩の芝居で火吹竹にて手指をピシ〳〵と折たり又近頃或る劇場にて演せし狼に喰れる所の如き非常に殘酷なる演劇ハ西洋でハ許しませんが日本にてハ未男女共に面白がり「ドーモ何五郎の喰れ方がうまい」抔と感賞するハ嘆息の至りでございます(未完)

〇女子の躰育、　櫻井錠二君　述

これハ去る頃東京高等女學校に於て櫻井君の演說せられたる筆記にて東洋學藝雜誌に掲げたるものなり

私ハ兼て主幹箕作君のご依賴に應じまして今日貴孃方の爲に何か話を致す譯でありますが私ハ誠に話下手でありますから此段ハ豫てお斷り申しおきます扨て私ハ近頃少々考へて居ました事もありますが是等の事柄ハ既に先日來穗積矢田部等の諸先生より委しくお話になりまして今日私の訥辯を以て又ハ同じ樣な事を申し述ても餘り面白くもありませぬ故に今日ハ少々事變ッて女子の體育といふ題にて暫時の間貴孃方のお聽を煩しは度存じます」女子の體育といふことハ實に重大なる問題にて中々私如きものゝよく論じ盡し得べき所ではありませんが其一日も輕忽にすべからざるを感じまして今

二百七十一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

日茲に持出した譯であります」抑も體育といへる事ハ女子に限て必要だと申す譯でハありませぬ体育の女子に必要なれば男子にも矢張必要でありませうされば何故に私が今日殊更に女子の體育と申す事を茲に持出しかとお尋でありませう其譯ハ男子の體育ハ既に多少世人の注目する所となりて或ハ何學校の運動會と稱し或ハ何塾の遠足會と名けて角力綱引フートボル等の遊戯をなし或ハ隅田川にて舟の競爭を催ほすなど活潑なる遊戯ハ隨分盛んに行なれまして實に悦ばしき事でありますが是に反して女子の體育といふ事ハ丸でうち捨てある樣に思れます是ろの理由の一つでありまそ又二つにハ男子ハ生長の遲きものにて先三十位まではハ骨肉共に成長するものあれども女子の方ハ之に反して生長速く丁度貴孃方の年頃が最も大切であります故に貴孃方が今日に於て體育を惰るると後日大なる憂を生じませう」先私の話を新橋のステーションから始めませう新橋のステーションに汽車が着きまして乘客の車より下りて來るのを見ますに著るしく眼に立つ事ハ西洋人の身高くして骨格よき事と日本人の身低くして骨格惡き事であります勿論之ハ新橋のステーションに限りたる事ハござりませぬ夜會にても音樂會にても凡て西洋人と日本人と打

混りたる場所にてハ常に此事が眼につきまして我々の甚だ遺憾とする所であります西洋人ハ日本人に比して其身高くして骨格よきのみならず其强壯なる事ハ中々我々の及ぶ所でハありませぬ而して其精神の活潑なる事も遙我が日本人の及ばざる所であります扨て西洋人と日本人との間に其身の高低といひ其骨格の善惡といひ其身體の强弱といひ又其精神の英鈍といひ此著るしき差のあるハ抑も如何なる譯でありませう其原因ハ樣々ありませうが先私の考へにてハ第一にハ衣食住の別第二にハ運動の多少であらうと思ひます此諸點によく注意したらんにハ日本人と雖も遠らずして西洋人に近き人種にならうと思はれまそ而して衣食住の改良と實施するハ他日一家の奥さまとならるべき貴孃方の責任であります又人種改良の重き責任も他日母親とならるべき貴孃方にあります私ハ是より衣食住と運動の事につきて少々申し述ませう「第一食物の事」食物ハ先餘計に喰る方が宜いか又ハ少く喰る方が宜いかと申しまそに是ハ喰過るも宜からずまた喰足ぬも宜くありませぬ併し何れかといへバ先喰足ぬ方が餘計に惡くあります元來食物ハ何の爲に之を要するものでありませうか我々ハ毎日手足を動かし身体を勞し又腦髓を勞しますが故に我身に餘

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

程の損を來します丁度衣服を久しく着れば破れ損じて着られなくなる樣なものであります其日々の損毛を償ふが爲に毎日食事をするのであります又第二には我身體より絶えず熱が散て居ります其熱とすれば手短にいへば食物が体内で燃て生するものでありまして即ち我生命を保持するには必要なものであります此日々消費する所の温熱と償ふが爲に亦食事と要する譯であります丁度ストーブに時々石炭或は薪を入れなければストーブの火が消えると同樣であります併し此二つの理由は充分生長と遂げたるものゝ食物を要する譯でありますが貴孃方におきましては此外に尚ほ一つ重要なる理由があります即ち生長の爲骨肉製造の爲に食物の必要であります故に若貴孃方が食物を充分に上りませぬ時には其多分は身体の損と温熱の消費を償ふ爲に取れ殘る一小部分しか生長の方に向はぬ譯でありませう或は甚だしき場合では生長の全く止る事もありませう然るに我邦の從來の習慣としてお孃樣奥樣は成丈小食なるを貴びご膳粒を堅にして一粒づゝ口に入る樣な仕附に成つて居りましたものなれば是或は我が婦人の小さなる一源因かもしれませぬ兎に角食物の不充分なるは甚だ悪い事と思ひます

（未完）

◎新作物語

○閨の徹夜燈　第一篇　南翠外史　述

第三　孀婦の知己（つゞき）

明る日も常の如く日課を終へ浴み夕餉などうち濶ぎて食しけるが此の日竊かに人の告ぐを聞くにお覺は裁縫の教場よりの歸るさ聊かなる事の間違ひより我が家作に住へる商買が娘にて本年七歳なると痛く鞭韃懲らしぬ然れども雨露を凌ぐべき家を借る其の持主の娘御がせし事なれば訟へんも了得にて母なる人口惜き胸と撫収め却つて我が子と詬責めて事熄みけるよし交れもなう沙汰したりければ偖も未だ慈愛の心は起らずや何とて斯くは荒々しきぞと思ひながらもお福美は更に聽ざるものゝ如く知らざるものゝ如くしつ去りながら夜るの事ども果て衾に入り向ふ面に枕して佯眠りしてありけるがお覺は了得よ堪えやらぬ心やしたりけん「阿母さん〳〵モウお寢みなすつたノ、明夜の後を話して頂戴ナ、エ、阿母さん、少しで宜いからお話しゝて下さいナ」と搖動かすにお福美は始めて心着たるものゝ如く「アイ話しませう」と向代りぬ

總兵衛が發足は愈々明日の朝と極まりけるが妻は初産の事と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

いひ殊にハ江戸も京坂も物騒がしき折なれバ只願に病ひを構へて辞し給へと止めけれども御受したるものを今更に辞ひ奉らんハ年来御恩と被りたる御出入邸に對して不都合なりとて夜を籠めて人々に別れの盃を酌交し旅の準備も粲略ハ調ひければ伴に召連んと定め置きたる男に萬の事を心得させつ纔かながらも目を休めんと思ひ閨に入りける間もなく遅かれと祈りし八聲の鶏ハ生憎に疾く啼立る心地して遽だしく起出るも壮んものゝ常とて最と潔よく細刀造りの両刀を横たへて妻にも篤く別れを告げしが是れハ昨夜の悲歎にて心地常の如くならず煩しきとて臥床を得出ず涙ながらに送るのみ総兵衛ハ心弱くて適はじと思ひければ恩愛を断ち精を励し我が屋の閾を跨げる折奥の方俄かに騒がしくソレ醫師に走れ産婆と呼んで来い子安観音の尊像に戌の日の水天宮様ハ何處にある安生のお守護ハ何れぞと罵り狂ふに総兵衛もさてハ蟲の冠りしか月足らずにて生るゝにやと出せし足を退んとする時邸より遅刻しつとて小厮の迎ひに来たりければ入りて看護ん術もなく心を鬼に小厮に急がれ引れ勝なる後髪を義理てふ利刀にて斫拂ひ目を塞きて走せ去りける総兵衛が心の裡ハ如何切なる懐ひにてありけんかし妻が追慕ハ如何にぞありけん

妻ハ事の愁傷に暴かに蟲の氣と催し醫師産婆に扶けられて設けの産屋に坐を遷せしも只だ苦痛に堪ずして悶へ悩めるのみなりしが三日三夜の煩悶にて辛くも身二つになりけるハ珠を欺むく女子にて産聲姦しく泣立けるに産婦も始めて心を復し此の恐るべき難産の割合にハ後産も軽く収まり待受けの乳さへ足らぬながらも迸しりて夫より順に肥立もよく産児も誠に壮健なりければ一家親類の喜びハ比へんにものなくさて七夜にて方の如くに式を行ひ富ヶ岡の祠官に頼みて命名の式を行ひ其の名を阿嘉稔と號けたり月足らずにて生れし者ハ肉着悪しくて兎角に病ひ勝ちなるものぞと言ふなるに此のお嘉稔ハすが〱しう肥立て誠に麗はしく育ちければ妻が身にてハ疾く我が良人の帰りてよ此の愛らしき寝顔を見せんものをと思へるまゝおふたの来る折此の事精しく文の傳に言送りてよと頼み聞えつ自らも筆採りて手の慄はれざる折を見合せ及ぶ限り事精細に言送りけり然れバ京よりも悦びの文来りて飛脚の便にハ清水の御符、誕れかけ、巾着なんどを贈り遣はしければ何卒少しにても公けの御許し出たらば速かに帰り来ませなど便り毎に言遣りて今日や帰るとの沙汰あるか明日や着くとの報知あるのと待にハ月日の永かるに年明けても帰らんといふヿ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

音信もなし其中に復もや一年と重ねてお嘉稔ハ三年となり父よ母よも自由に語る頃とハなりても京の便ハ途絶たるまゝなりけるが其の憂苦勞さへあるものと況て京の空に戰ひの起りて今にも關東へ攻入ぶんと取沙汰するに鳥海にて誰一人として主人が上を案じぬものとてハあらざりけり然る程に世ハ王政と遷變りて我が家の商賣ハ前よりも繁昌なしお嘉稔も壯健に成人すれども惣兵衛が事ハ噂さる人もあらぬに妻ハ最と太う心を苦しめてや明治九年といふ年の秋惣兵衛が事を言續けて今茲十一歳なる可愛のお嘉稔を跡に殘しつ鬼籍の人とハなりにけり一家の愁傷ハ絞るが如くなれども然れバとて死したる人の歸るべきものならねば茶毘

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一片の烟として菩提院へ葬り後ハおふたの取計らひて其の良人を後見と定めまたおふたが次男にて本年十五歳になるをお嘉稔が婿養子となし今五年を經ば婚姻させんとて三代目鳥海總兵衛と名乘せたり不幸の來る時にハ斯くも不幸の重なるものにや五年の期限も來りて當る三月ころ月並宜しければ愈々婚姻の祝盃を擧げて夫婦にせんものをと專々其の心構へをしたりけるに二月の月に入る頃より總兵衛ハ不圖風邪の心地にて打臥しけるが始めの程ハ當座の事なり思ひしも日を經るに隨ひて重り行き今日婚禮と定めたる日ハ苦痛の爲めに絶足する事二三回にも及びしゆゑ折角の事の設けて氷の泡と消往きて事皆な空しく成りにける總兵衛が病ひハ是より日に添へて重るのみ三月にも成りてハ勞れに勞れて遂に敢なくなりにけり嗚呼如何なるお嘉稔ハ斯くまでに薄命なるよ父にハ一刻と境ひにして顔をだに見ず生別れとなり父知らずにて育ちけるうち母にハ死に別れまた今日こそ良人と稱びて末睦しく暮さんものをと思ひけるに是れにさへに死に別れて未だ春知らぬ身ながらも今ハ新たに寡婦とぞ成りぬる

ト力を籠めて語りつゝ「今晩ハ是までだヨ跡ハまた明日の晩話しませうサア朝に晩くなるから早くお寢ヨ」

◎家政要報

○水硼礆を製する法　洗濯などなすにハ水硼礆を製しおき用ふる時ハ經濟上の爲にもよく且つ便利のよしなるが扨てその製法ハ結晶したる灰汁一斤に雨水またハくみ置の水六七升を加へてよく煑立硼礆脂(牛羊豚などの脂肪を製したるもの)四斤を入れて溶かしまた一斗ばかりも水を加へよく放冷して用ふべしと家政全書に出たり

○越後縮ハ越後より産出し專ら女子の手業にて一反の織上に並物ハ六日上物ハ九日以上を費すものなるがゆゑに利益少きに加へて近來の不景氣なるより是まで機業のみに從事せし婦人も止を得ず農業などに身を入るゝが爲品物拂底となり本年に至り俄かに騰貴し昨年に比すれば殆んど二割方の高直なりとの事

○氷ハ寒氣の弱かりしが爲天然氷の輸入高昨年にくらぶれバ餘ほど少しとの事なるか當夏もまた昨年の如き暑さならんにハ増々高直なるべしと思はる

○鰹　初鰹ハ去月中旬入津せしがその后不漁にて差たる入荷もなかりしに此程房州の東浦上總の勝浦邊にて相應の漁あ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

りて去る七日魚河岸に着荷せし由なるが魚ハ下等なれど賣口よく一尾十八九錢より廿六七錢の相場のよし

◎白米小賣相場　（一等）一斗四升（二等）一斗四升六合（三等）一斗五升三合（四等）一斗六升七合（五等）一斗八升

◎御伽草

○數學問題（答ハ今月限り）

父ハ三十七歳子ハ七歳なり依て問ふ幾年の後父の年子の年に三倍するや（前橋清水參男君出題）

○考へもの〻題（同上）

左の詩ハ本邦の歴史中誰を詠せしや（岡山秋蝶園主出題）

雲鬢花顔手奮ヒ戈ヲ。將軍ノ馬畔殺レ人多シ。勝レ他ニ垓下虞姫ノ舞。徒使ニ下重瞳ヲ泣カ目ッ歌上。

左の歌ハ誰人の如何なる行爲を詠じたるにや（竹内泰君出題）

見る目ぶにうき身をさへにねむるてふきみがつとめのひとかたゐかも

○前々號數學問題の答式

1＋1.78＝1.178　1.178:48＝0245416……答二錢四厘五四一六餘

（答者）東京中根道之、今村はつ、中村かね、金村なか、吉田哲吉横濱のR.M.八王子二宮キサ、同梅村シゲ、同松山アサ、崎玉川口岩田伊與、前橋清水參男、美濃撫箏女史信州上諏訪金子準藏同遊座宅三

○前々號考へ物の答

（甲の詩）石田三成（答者）東京宮邊タツ、白金樹木谷一書生、淺岡秀二、村松トク、横濱石井漂泊生、八王子杉山アサ、同梅村シゲ、同二宮キサ、美濃撫箏女史（甲の歌）袈裟女（答者）東京中村かね子、飯田一女生、横濱ヨ.の.、八王子杉山アサ、同梅村シゲ、二宮キサ、信州上諏訪金子準藏同豊田村遊座宅三

（乙）禁酒（答者）東京飯田町一女生、白金樹木谷一書生、横濱のR.M.前橋清水三男、八王子杉山アサ、同梅村シゲ、同二宮キサ、崎玉岩田伊與子美濃撫箏女史、伊豫宇摩郡川之江星とミ、長野縣諏訪郡豊田村遊座宅三

◎寄書

○伊勢物語ハ詞花言葉のみと事とせざる説

小石川　ろく子

前號（本誌第五十七號）にほゞ論ひたるごとく既く藤原兼範卿の和歌童蒙抄にも業平が手づからかみや紙に書ける伊勢物語の朱雀院の塗籠にありけるにハ云々と見え顯昭が古今秘注にも此書ハ古今集より前なるものとゐけれバ業平朝臣の自記とする事しるしされバ信友も古今集ハこの物語とをりて載せられたるなりそれその詞書集中なべての例に似ずいたづらなるばかり長くて皆この物語に見えたる詞におほかた異ならぬをもてゐるべしといひ（假字本末）平田翁ハ此物語を以て平假名文の祖とせられたりき（開題記）業平朝臣の自ら書きゐるしたるものとせば身まかられしハ元慶四年なればその近き世にものせられたりとせんにも古今集選ばれたる頃より二十餘年前の事なればなり又ある説にこの物語ハ伊勢の御の筆ならんといへりされど是文體女のかけるさまならず男のゐかも文に巧なる人の書けるにて文の体いと老ゝりと眞淵翁のいはれたるが如し又

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

眞字本に村上天皇第八の皇子六條宮具平親王御撰とあるは本居翁玉勝間のいはれたるごとく後人のさかしらに書き入れたるものなるべし但眞字本との優劣は強ち本居翁の說にも從ひがたしそは藤井高尙伊勢物語新釋のいへるごとく互によきあしき所々あればなりさて粗いへるごとくこの物語は業平朝臣の時勢をうとましうおもふ頃來し方の事ども詠める歌など心やりに自ら書きおかれし記の笥の底などに殘りて世に傳はりけるを後に事好める人のあらぬさまにつくりなして初冠より身まかれるまて業平朝臣の事にて業平朝臣ならず皆にそれとわきがたくかき僻めたるなん作り主の心ならびにてそれぞやがて袋草紙にいへる僻事物語の義なりけるされば孰れを自記のくだりいつれを加へたる條とも作者をおきては當時も猶わきがたかりけん況て今の世にしてはまさにわきなんやさると野々口隆正の復古解に業平自記の章を撰み出されたるは穿ちすぎたりとやいはん斯く作者は巧に書き僻めたれば一わたり見ればその詞花言葉のみこそ雅なれその事實はいとみだりがはしくてすくよかなる人のつまはじきはのがれざるべしされど源氏物語の世と褒貶し落久穗物語の繼母を戒むるなど〻均しく深き心ありてかけるものと覺ゆるなり其故は三代實錄元慶四年五月廿八日の條に從四位上行右近衞中將兼美濃權守在原朝臣業平卒、業平者、阿保親王第五之子、正三位行中納言行平之弟也、阿保親王娶₂桓武天皇女伊登內親王₁生₂業平₁云々業平體貌閑麗、放縱不₂拘、略無₂才學₁善作和歌、云々と見えたりこの無の字は有の誤ならんと或說にいへり實に略無とては穩かならぬ心地すれば有の誤ならん大日本史の傳には略無才學の四字を削られたり又三代實錄貞觀十四年五月十七日勅遣₂正五位右馬頭在原朝臣業平₁、向₂鴻臚館₁、勞₂問渤海客₁、是日客徒賜₂宴、と見えたりこの日の宴には客人と言談贈和の遊びなどもありしなるべければ猶無の字は有の誤とする說よろしからんかくはかく〳〵しき人がらなるを大日本史贊には雖₂居₂歌仙之一₁、而輕薄放蕩、名撿掃₂地、としもいはれて古今集に載せられてさしも惟喬親王に忠なりし事はその傳に載せられざるはいかにぞやまたこの物語の深意のあるところを知らざる過と謂つべきのみ」今この物語を以て三代實錄大鏡裏書等の書に照して思ふにこの中將おほやけの事にあづからしめ玉はゞいとめでたかるべきを當時文德帝第一の皇子惟喬親王を儲位に定めたまはんの御こゝろなりしに外舅良房大臣に憚りたまひて或は神に祈りまたは秘法を修したまひしも御本意とをげたまはず遂に染殿の后良房の女の腹に生れたまひし惟仁親王を太子に立たまへりこの時惟仁親王生れたまひて僅に九月なりきこれ藤氏專權の初めにてやがて王室の衰頽をまねく基とはなりにたりそもいかなる枉津日のあらぶる世なりけんかゝる未曾有の事さへ出來にける時なれば志あらん人はいかでか憤らざるべきはた惟喬親王は第一の皇子にわたらせまし〳〵て帝もかねて儲君とおぼしたる事なれはもめ遂ふましきと良房大臣の權威におされてえ立給はず御弟の惟仁親王にこえられ玉ひければ惟喬親王はいかに憤りおはしましけん卦戶とさへ三度まで辭し玉ひ貞觀十四年七月頃に出家して沙門となり玉へるさまは三代實錄に見えたるが如し此物語の中に惟喬親王小野に住たまひし時まゐられたる條に」や〻久しくさふらひていにしへの

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

事など聞えたり「なく〳〵來にける」などあるを按るに業平朝臣も此皇子と御位につけ奉らまほしくおぼしたる事明らけし然るに當時王室といへども勢なく政を執るものは藤氏の一族に外ならず帝の御志も得とげさせ玉はぬ勢なれば朝臣深く其はからひを憤りて遂に身をはふらかしたるなるべし是一人の力よく左右し得べき時勢にあらざればなり然れども此事おほやけにも憚りあれば二條の后の御事によりてのみ世をうとみしやうに書きまぎらしたるは例の作者の心ならびなりまた「昔男ありけり身はいやしながら母なん御子なりける」と見えたるは伊豆内親王（桓武帝皇女）の御子にて阿保親王は御父なればなり之はたいかなる官位をも玉はるべきにさもあらぬは時勢にあはざるが故なりと憤られし事おもして知るべし（以下次號）

○石田先生の謹戒　　花迺舍．主人　寄

心に物ある時は我躰究屈なり　物なき時は心廣く常に豊なり
心に氣隨ある時はくやみ多し　氣隨なき時はくやみなし
心に邪あるときは人を損ふ　直なる時は人を損はず
心に慾あるときは義と思はず　慾なき時も仁義自らもとゝなふ
心に我慢ある時は愛敬を失ふ　我慢なき時は敬愛あり
心に奢ある時は人をあなどる　奢なきときは人をうやまふ
心に飾あるときは僞をおもふ　飾なき時はいつはりなし
心に私あるときは人を疑ふ　私なきときは人を疑はず
心に過失ある時は人を恐るゝ　過失なき時は人を恐れず
心に貪あるときは人に諂諛ふ　貪なき時は人にへつらはず
心に迷あるときは人を咎むる　迷なきときは人をとがめず
心に賤き所存ある時も願多し　賤き所存なき時は望み少なし

◎英語獨修

○ニユー、ナショナル、リードル直譯

〔第十六節〕㊀アン㊁汝ハ㊂私ト㊃共ニ㊄乘リヲ㊅取ル㊆あらう（か）●㊀㊁オー然リ㊂私ハ㊃わらう●㊀私ハ㊁亦㊂私ノ㊃人形ヲ㊄取リ㊅得る（か）●㊀然リ㊁汝ハ㊂人形ヲ㊃取リ㊄得る●㊀アン、ハ㊁彼女の㊂帽子ヲ㊃㊄着㊅而㊆乘る㊇べく㊈彼女の㊉人形ヲ⑪取ヲ⑫あらう

〔第十七節〕㊀如何に㊁速に㊂我々ガ㊃乘る（よ）●㊀私ハ㊁乘る㊂べく㊃好む㊄而㊅又㊆私の㊇人形ヲ㊈夫ヲ㊉好む●㊀アン㊁汝ハ㊂其㊃樹ニ㊄於て㊅夫等の㊆五の㊇小さ㊈小鳥ヲ㊉見⑪なす（か）●㊀㊁オー然㊂私ハ㊃彼等ヲ㊄見る●㊀彼等ハ㊁甚㊂美麗なる㊃小鳥デ㊄有㊅ぬ（か）●㊀然●㊀彼等ハ㊁雪㊂鳥ダ㊃ある

NEW NATIONAL FIRST READER.

XVI.

アン　ウヰル　ユー　テーキ　エ　ライド　ウヰツ　ミー
Ann, will you take a ride with me?
㊀ ㊆ ㊁ ㊅ ㊄ ㊃ ㊂

オー　エース　アイ　ウヰル　メー　アイ　テーキ　マイ　ドール　ツー
O yes, I will. May I take my doll, too?
㊀ ㊁ ㊂ ㊃ ㊅ ㊀ ㊄ ㊁ ㊃ ㊁

エース　ユー　メイ　テーキ　ゼ　ドール
Yes, you may take the doll.
㊀ ㊁ ㊄ ㊃ ㊂

アン　ウヰル　プツト　オン　ホル　ハツト　エンド　テーキ　ホル　ドール　ツー　ライド
Ann will put on her hat, and take her doll to ride.
㊀ ⑫ ㊃ ㊄ ㊁ ㊂ ㊅ ⑪ ㊈ ㊉ ㊇ ㊆

XVII

ハウ　フアスト　ウヰー　ライド　アイ　ライキ　ツー　ライド　エンド　マイ　ドール
How fast we ride! I like to ride, and my doll
㊀ ㊁ ㊂ ㊃ ㊀ ㊃ ㊂ ㊁ ㊄ ㊆ ㊇

ライキスイト　ツー
likes it, too.
㊉ ㊈ ㊅

アン　ヅー　ユー　シー　ゾース　フアイヴ　リツル　ボルツ　オン　ザツト　ツリー
Ann, do you see those five little birds on that tree?
㊀ ⑪ ㊁ ㊉ ㊅ ㊆ ㊇ ㊈ ㊄ ㊂ ㊃

オー　エース　アイ　シー　ゼム　アール　ゼイ　ナツト　ヴエリ　プレチイ　ボルヅ
O yes, I see them. Are they not very pretty birds?
㊀ ㊁ ㊂ ㊄ ㊃ ㊄ ㊀ ㊅ ㊁ ㊁ ㊃

エース　ゼイ　アール　スノー　ボルヅ
Yes. They are snow-birds.
㊀ ㊀ ㊃ ㊁ ㊂

二百七十九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

驛遞司認可

廣告

元老院議官中村正直先生題字●獨乙伯林大學講師ジウリング先生著●獨乙哲學士久松定弘君譯

○●○●○●○●○●○●○●○ 女子高等教育論 ●○●○●○●○●○●○●○●○

全　定價六十五錢

此書ハ獨乙伯林大學哲學經濟文學數學四科ノ講師タリシ碩學ジウリング先生ノ原著ニシテ久シク伯林大學ニ遊ヒ親シク先生ニ師事セラレシ哲學士久松定弘君ノ反譯セラレシモノナリ抑モ先生ハ早年明ヲ失フト雖モ苦學數歲哲學經濟文學數學ノ四科ヲ修メ學理ノ造詣思想ノ卓越ヲ以テ其才名忽チ國內ニ響キ遂ニ伯林大學ノ聘スル所トナレリ又高等女學校ノ講師トナリ大ニ感スル所アリ女子教育法ノ未タ善良ナラサルヲ知リ女子品行ノ未タ高尚ナラサルヲ憂ヒ慨然トシテ一書ヲ著シ以テ世ニ問ヘリ即チ今所譯女子高等敎育論是ナリ此書一タヒ世ニ出ツルヤ世人其論ノ新斬奇抜ナルニ驚キ甲是乙非評論百出學士ノ間一時之カ爲ニ囂然タリ甚シキハ街頭之ヲ鬻クモノアルニ至レリト云フ亦以テ其論旨ノ時ニ愷切ナルヲ知ルニ足ルヘシ而シテ譯文ノ流暢明快ナル毫モ反譯ノ氣臭ヲ帯ヒス讀者ヲシテ一讀ノ下神會意通セシムルノ良書ナリ

京橋上槇町八番地　六合館

●ともどちにつげまゐらす

いまよりさけとたばこをつゝしみやめる　●たゞしさけをのまねばならぬつきあひはさらにしやせつず

五ぐわつ一にち　うぢ、はるちよ

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

●成軒學人石原先生編輯●●●●●●●●●●●●●西洋綴全壹冊●定價

●染工必携 **萬色染法獨案內** ●金一圓なれども壹万部限特別大減價 **金五拾錢** にて有志希望者に分つ●本書希望者ハ一部に付き郵送費金十錢相添へ申込あるべし●着金の順序を以て至急送本す●滿員の上ハ一切謝絶す

本書ハ編者が京阪地方の各染法傳授所より傳授と受け其中に就いて彼是折中し疑ハしきハ理學ヨ照らし其簡便にして實益あり其色鮮美にして變褪の憂なき完全無欠の良法を詳細綿密に記せし者ヨして其分かり易きこと手づから其敎を受くるより猶明らかなり今其目錄ハ左に掲く

(目錄)紺色染法●紺色染同別法●花色染法●淺黃染法●藍鐵染法●藤色染法●藍鼠染法●銀鐵染法●藤鼠染法●銀鼠染法●水色染法●緋染粉製造法●緋色染法●紅梅色染法●トキ色染法●樺色染法●柿色染法●黃色染法●鳶茶染法●樺茶染法●金茶染法●密柑茶染法●小豆茶染法●蝦茶染法●白茶染法●青竹色染法●紫色染法●茜色染法●黑色染法●青色染法●革色染法●萌黃色染法●木綿紅染法●木綿漂白法●獸毛晒白法●木綿藍抜法●絹地藍抜法●紺地に白文字抜法●全印紋抜法●諸色色止藥製法●カスカイ糊製法●繻子等の斑點抜き法●フランチルの洗ひ法●色染洗ひ法●木綿のカビ氣を除く法●布片の油汚を抜く法●染絹洗法●手洗ひ水製法●其他染法に關する要件

發賣本舖　大坂東區膳安筋兩替町北へ入東側　博文堂 書舖

●國民の教育

毎月四回發行　十部前金四拾五錢

本誌ハ凡ソ國民ノ敎育上ニ關スル中外諸家ノ論說ヲ始トシ官報及ヒ府縣ノ通信歐米各國の來報等ヲ網羅薈萃シタル者ニシテ實ニ全國敎育家必覽ノ好誌ナリ即今發刊願中ニ付不日允准次第逐號印布可仕候此段豫テ稟告仕置候也

馬喰町　石川書舖

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同　拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同　二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同　三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同　四拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ヨて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券と本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　積文舍

持主兼印刷人　松本義弘

編輯人　初鹿野錦五郎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY